心の輪を広げる体験作文　小学生部門　◆優秀賞

「津久井しえん学校に行って」

相模原市立桂北小学校　三年　齋藤（さいとう）　ゆずき

わたしは、六月ごろ津久井しえん学校の人たちと交流会をしました。

交流会でしたことは、物を落としちゃいけないゲームやあいさつゲーム、バルーンを使ったゲームなどをして遊びました。はじめの時は、きんちょうして話せなかったけど、時間がたつと話せるようになりました。

津久井しえん学校にいる人は、体や手や足の不自由な人、チューブをつけて車イスにねている人、耳にヘッドホンをしている人たちがいました。わたしは、何で耳にヘッドホンをしているのか気になったから調べてみました。調べてみると、ヘッドホンではなくて「イヤーマフ」と言うそうです。イヤーマフをつけている人は、わずかな声が大きく聞こえてしまったりドライヤーの音、ふみ切りの音といったとく定の音がにが手な人が多いみたいで、イヤーマフをつけることで外からの音をやわらげているそうです。

わたしのお母さんは、津久井しえん学校をそつぎょうした人たちとはたらいていて、しょく場の人からイヤーマフをかりてつけたそ

うです。イヤーマフをつけると、外からの音や会話の声は何も聞こえなかったと言っていました。けどイヤーマフをひつようとしている人には、イヤーマフをつけてても会話ができたり音が聞こえているみたいです。毎日の生活でとても大きな声や音を感じているんだなと思いました。ほかにも体の不自由な人がいて、わたしは車イスの生活をしたことがないから何が大へんなのか分かりませんでした。でも、考えてみると一人でおふろに入ることも、トイレに行くことも、車や電車にのることも大へんなことなんだと思いました。生活をしてる中にできないことが多くてビックリしました。

わたしは、はじめての交流会でしょうがいのある人と遊んだり会話をしてみて気になったことを考えたり調べたりしているうちに、一番大切なのは、助け合いだと思いました。わたしの近くに、イヤーマフをつけている人がいたら大きい声や音を出さないようにしたいし、車イスの人や目が見えない人、何かにこまっている人がいたら、「だいじょうぶですか。」と声をかけられるようになりたいです。